

# 天地人

第11号 No.11

Aug 2010

ISSN 1882-3580



打ち捨てられた工場を一気に壊すのではなく、さまざま用途として再利用する動きが中国で起こっている。上海で我々が2004年に実施した工場再生のワークショップがそのきっかけとなった。スクラップ&ビルドとは異なる、もうひとつの都市更新の在り方である。 2004年8月登壇撮影 解説：村松伸

## Contents

### 地球環境問題と多様性

中尾正義 — 2

NIHU 現代中国地域研究・拠点連携プログラム第3回国際シンポジウム「環境問題—中国の未来可能性」

松永光平 — 4

第3回国際シンポジウム「環境問題—中国の未来可能性」への4つの問題提起

毛里和子 — 5

第3回国際シンポジウム「環境問題—中国の未来可能性」に参加して

相川泰 — 5

人と自然が調和する都市計画

一ノ瀬俊明 — 6

国際シンポジウム「中国の都市化の進展と環境問題」

鄒怡 — 8

復旦大学歴史地理研究中心の紹介

満志敏 — 10

陝西師範大学西北歴史環境と経済社会発展研究中心の紹介

侯甬堅 — 12

統万城緑色都市回復基地 2002—2010年植樹状況調査報告

張憲功 — 14

お知らせ — 16

### 地球环境问题与多样性

中尾正义 — 2

当代中国地区研究基地联合项目第三届国际会议《环境问题：中国的未来可能性》

松永光平 — 4

当代中国与环境问题——四个挑战

毛里和子 — 5

参加第三届国际学术会议“环境问题：中国的未来可能性”的体会

相川泰 — 5

人与自然和谐相处的城市规划策略

一之瀬俊明 — 6

“中国的城市化进程与环境问题”国际研讨会综述

邹怡 — 8

复旦大学历史地理研究中心简介

満志敏 — 10

陕西师范大学西北历史环境与经济社会发展研究中心介绍

侯甬坚 — 12

让绿色重新拥抱统万城——统万城绿色都市恢复基地 2002—2010年植树情况调研报告

張憲功 — 14

最新动向 — 16

### Global environmental issues and diversity

NAKAWO, Masayoshi — 2

NIHU Network of Contemporary Chinese Studies third Symposium "Environmental Issues: The Futurability of China"

MATSUNAGA, Kohei — 4

Environment in China: Four controversial points

MORI, Kazuko — 5

A report on the 3rd international symposium "Environmental Issues: The Futurability of China"

AIKAWA, Yasuxi — 5

Urban planning strategy for harmony between people and nature

ICHINOSE, Toshiaki — 6

International symposium: Urbanization and Environmental Issues in China

ZOU, Yi — 8

Introduction of the Historical Geography Research Center of Fudan University

MAN, Zhimin — 10

Introduction of the Center for Historical Environment and Socio-Economic Development in Northwest China of Shaanxi Normal University

HOU, Yongjian — 12

Report on tree growth and condition in Tongwancheng green urban recovery zone, 2002-2010

ZHANG, Xian-gong — 14

Currents — 16



# 地球環境問題と多様性



人間文化研究機構 地域研究推進センター長 中尾正義

生物多様性の喪失が地球環境問題の一つとして問題にされている。しかし、生物多様性が失われると何が問題なのか、生物多様性はなぜ大切なのか、という問いに答えるのはかなり難しいらしい。ゴキブリの嫌いな人にとって、ゴキブリが世の中から消えて何が悪いのか、ということである。人類は全力をあげて天然痘を撲滅してきたという歴史もある。

生物多様性とならんで、文化の多様性や食の多様性も最近急激に失われてきているという。これらの多様性も、失われると何が問題なのかと正面切って尋ねられても、明確に答えるのは困難だとのこと（『生物多様性はなぜ必要か？』日高敏隆編、地球研叢書、昭和堂、2005）。「なんとなく多様性は重要なのではないか」というのが多くの人の感覚ではなかろうか。

いわゆる地球環境問題は、公害型の環境問題と異なり、その原因の特定が極めて難しい。原因が単一である場合は少なく、人間の日常的な営みが深くかかわる複合的な原因の帰結として問題が顕在化する。

複数の原因による様々な影響が相互に複雑に絡み合い、あらたな問題を引き起こしつつまた別の影響を引き起こしたりもする。因果関係もまた多様である。したがって、問題への対策を立てようとしても、多様な因果関係すべてを理解できないまま、いくつかの原因を想定して対策を立てざるを得ない。対策それ自体がもたらす複合的影響をあらかじめ予測することも極めて難しい。

地球環境問題に対しては、その学問的取り組みがまだ始まったばかりにすぎない。多様な要素の複雑な関わりを解きほぐすことの難しさと、「行動」によって引き起こされる諸々の影響の連鎖をすべて想定することの難しさとの両者を抱えている。

地球環境問題という人類史的課題に対して、何らかの対策を行うことが、特に為政者には求められている。しかし、様々な環境対策を行うにしても、対策という「行為」それ自身に導かれる様々な影響をすべて予測することは、上述のように、現状として難しい。

最大限予測する努力をしても、想定外の結果が多々生じる。多様な因果関係が良くわからないからである。したがって現状では、想定外のことが生じるということを想定しておくほかはない。

中国においては、立案される様々な施策の実現性は非常に高い。中央政府の強い指導力のもとで、様々な施策を効率良く実現できるからである。地球環境問題に対する対策もまた然りである。しかし地球環境問題の場合には、上述のように、往々にして想定していないことが生じる。施策の立案



放棄された大規模農地に捨てられたままの農業機械（モンゴル、2003年7月）

時にはベストだと思われた場合でも、実施してみると初期に想定した結果にはならないことが多い。

「思いもよらない」想定外の変化へ対処するためには、多様な学問的裏付けが不可欠である。想定外の変化が生じてからでは、多くの場合、問題への対処が間に合わない。不測の事態に対してある程度の対応をするためには、あらかじめ様々な知見を蓄積しておくこと、つまり学問の多様性を担保することが重要である。特定の学問研究が規制されていたがために、うまく適応できなかったことがあるという人類の歴史を直視すべきであろう。

地球環境問題でも、対策を考える政策研究が必要であることは言うまでもない。しかし同時に、自由な発想による多様な学問研究の基盤を確保しておくこと

もまた不可欠なのである。多様な学問分野にまたがる様々な要素が複雑に入り組んでいる地球環境問題においては特に、どのような想定外の事態が生じるか予測することが極めて難しい現状だからである。想定外の事態に対処するには、学問の多様性を担保すること、つまり学問の自由を確保することが必須だと思う。

つまり多様性を維持することは、大きな摂動に対する適応のための戦略、あるいはそのための保険と考えられないだろうか。このことは、現象に対する理解が十分に得られていない分野や状況ではことさら有効となるに違いない。学問の多様性に限らず、生物多様性や文化の多様性も含んで、多様性の確保は人類の適応戦略となる。

---

## 地球环境问题与多样性

人間文化研究机构 区域研究推进中心主任 中尾正义

---

地球环境问题的原因是多方面的，也是多样因果关系作用的结果。解决这些问题的对策本身，又会将造成更大的影响，而且引起意想不到的问题。因此，我们必须事先想到这种意想不到的变化，除此之外没有其它办法。为了

对应这些设想外的变化，就要预先确保各个领域的学术研究，即必须保障学术自由。也就是，确保各种学术研究的自由进行实际上是人类的应对战略。

---

## Global environmental issues and diversity

NAKAWO, Masayoshi

Director, Center for Area Studies, National Institutes for the Humanities

---

Environmental issues are a result of complex causes and multifarious cause-effect relationships. Measures against environmental issues can themselves be influential and may incite unexpected problems. Therefore, we must assume that “unexpected” changes will occur. In order to accommodate

unexpected changes we have to initially secure a diverse platform for academic research; in other words, it is essential to guarantee academic freedom. That is to say, ensuring variety also in academia is a strategy for human survival.



# NIHU 現代中国地域研究・拠点連携プログラム第3回国際シンポジウム「環境問題—中国の未来可能性」



総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点 松永光平

人間文化研究機構（NIHU）の現代中国地域研究拠点連携プログラムが毎年1回開催する国際シンポジウムが、京都大学百周年記念ホールにおいて、2010年1月30、31日に開催された。本シンポジウムでは、中国の環境問題について、多様な研究分野を有する現代中国地域研究拠点連携プログラムの特徴を生かして、歴史、経済、政治・社会の3つの異なる側面からその現状を明らかにするとともに、中国環境問題の今後を見定めることを目的とした。

はじめに、中国環境問題研究の先駆者、バーツラフ・スミル教授（マニトバ大学）が"China's environment: domestic concerns, global impacts"と題して基調講演を行った。中国では高い食料自給率を保つため化学肥料の使用量が著しく増加しており、窒素汚染が今後の中国農業の不安要素の一つとなっていることや、1人当たりのエネルギー使用量が日本やア

メリカよりはるかに低いにもかかわらず、CO<sub>2</sub>、メタン、NO<sub>x</sub>の排出量がいずれも世界一であることが示され、地球環境問題における中国の存在感が今後ますます大きくなるであろうことが指摘された。

引き続き3つのセッションで、それぞれ3名の報告者と2名の討論者により、報告と討論が行われた。第1セッション「中国環境問題の基底—過去と現在」では、中国の歴史時代における環境破壊の駆動力として人口増加が根本的に重要であることが再確認され、統計学・人口学的に意味のある人口データを復元することが今後の課題の一つとして提出された。

第2セッション「21世紀の中国経済と環境問題」では、現代中国の重化学工業化に伴う汚染の拡大や近年急激に台頭する中国環境産業の動向について報告があった。工業化の趨勢下における環境問題の解決への経路として、環境産業の拡大とともに、汚染に対する異議申し立て

や個人々の利益追求型から社会的責任への意識転換の重要性が指摘された。

第3セッション「環境問題の政治社会学」は、異議申し立て制度の実態や環境政策実施をめぐる中央政府や地方政府、さらにはNGOの役割などを議論した。企業が地方政府と癒着しているなか訴訟などの異議申し立て制度の活用が困難であることを踏まえ、新たな制度設計を意図してステークホルダーを集めた円卓会議を開く試みが紹介された。また従来発言力が弱かった中国のNGOが、気候変動のような地球規模の環境問題への関与を通じて政府・企業と協働を強める可能性が指摘された。

最後に、各セッションの議論を受けて、中国において環境問題解決にむけて何が必要とされ、環境研究は何をすべきなのかといった観点から、熱心な自由討論が行われた。本シンポジウムの内容は単行本として出版準備中である。

## 当代中国地区研究基地联合项目第三届国际会议《环境问题：中国的未来可能性》 総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点 松永光平

1月30日和31日，人間文化研究机构的当代中国地区研究基地在京都大学建校一百周年纪念堂召开了以环境问题为主题的国际研讨会。在研讨会上，除了关于中国环境问题现状的主题演讲之外，本次研讨会还对中国人与环境关系的变

迁史、近年来快速兴起的中国环境产业动向，环境纠纷的处理机制的实况以及中央政府，地方政府，以及NGO在实施环境政策中的作用等问题进行了发表和讨论。最后，还就环境问题以及环境研究的未来发展方向，进行了热烈的讨论。

## NIHU Network of Contemporary Chinese Studies third Symposium “Environmental Issues: The Futurability of China”

MATSUNAGA, Kohei RIHN-China

An international symposium, which is held annually by the Network of Contemporary Chinese Studies at the National Institute for the Humanities, was held on 30 and 31 January at the Kyoto University Clock Tower Centennial Hall on the subject of environmental problems. In addition to the keynote speech on the current state of Chinese environmental problems, there were reports and discussions on historical changes involving the environment and people in China, trends

in the Chinese environmental industry that have gained momentum dramatically in recent years, central and local government concerning the actual state of the system for lodging objections and the implementation of environmental policy, and the role of NGOs, etc. Finally, in light of the aforementioned discussions, there was a passionate comprehensive debate from the viewpoint of what should environmental research do and what is necessary with regard to solving environmental problems in China.

## 第3回国際シンポジウム 「環境問題—中国の未来可能性」への4つの問題提起

早稲田大学名誉教授 毛里和子



30年来の経済成長で中国はグローバル大国に浮上した。しかし中国経験は、経済発展と環境状況は逆比例することを示している。「環境と中国」についての議論を締めくくるパネルで筆者は3つの問題を提起した。

①途上国中国では、貧困問題型、工業開発型、消費関連型という3タイプの環境問題が挙げて進行しているが（王京濱ペーパー）、その中国で、環境保全と経済発展はトレードオフの関係なのか、両立的関係になりうるのか。

②環境問題にかかわる地方政府の役割をどう評価するか。30年間の経済成長で地方は高度経済成長の第一

の「立役者」だったが、環境汚染の張本人でもあった。地方政府が経済利益から自由にならない限り、中国に環境汚染を止める内在的条件はできないのではないだろうか。

③「環境と政治」の問題である。日本の場合に汚染の重要な抑止力になった住民の反公害運動や地方自治体の首長公選制がない中国では環境改善の担い手は一体誰なのだろうか？

NGOに期待できるのだろうか。ところが、パネルを終わって、環境問題の解決には市場経済の原理に対抗する思想、言ってみれば「モラル・エコノミー」、を必要とするという、より根源的な問題提起に出会っ

た。「自分自身が出会うことのない空間や、見ることでできない未来に対して責任をもつ」というモラルを人々は共有することができるのだろうか（小長谷有紀「環境問題から始まる倫理の時空的展開」2008年）。グローバル大国になった中国の知識人はいま、世界に提示できる「中国模式」はあり得る、としきりに論陣を張っている（たとえば潘維編『中国模式—解読人民共和国の60年』中央編訳出版社、2009年）。普遍的価値としての「中国模式」に筆者は懐疑的だが、もし万一、中国が上記の「モラル・エコノミー」を提示し得たならば、人々は「中国模式」を歓迎するに違いない。

## 第3回国際シンポジウム 「環境問題—中国の未来可能性」に参加して

鳥取環境大学 相川 泰



標記シンポは、現在の中国環境問題に関する研究の多様性を反映し、個々の報告は興味深くも、全体としては複眼の一つ一つに映る像のあまりの違いに呆然とするものであった。特に第3セッションでは政治社会学という1分野で、しかも長年、学術交流も積み重ねてきているはずの報告者たちによる3報告ですら、討論者の表現を借りれば「合わせると一致した像を結ばない」状態であった。このことは、第1セッションの文理融合をめぐる議論の有効性にも遡って疑問符を投げかけ、再検討の必要性を示したように思う。

主催者の苦勞は想像にあまりあるが、是非ともこうした国際的・学際的

な広がりを持った中国の環境問題をテーマとするシンポを、今後も継続的に開催してほしい。その際に今回のシンポを踏まえて取り組みをお願いしたい課題として、今回の第1セッションと第2・第3セッションの議論をつなぐこと、あるいは第1セッションの議論にあった世界的視野と長期的視野で、第2・第3セッションの議論の対象であった、現在の中国の環境問題をとらえること、を挙げておきたい。

プログラムの最後の方、自由討論で議論になったとおり、少し時空の視野を広げれば、かつての日本の公害も現在の中国の環境問題も、世界的な工業化の高波が押し寄せた時に激甚期を迎えている点をはじめ、共

通性も連続性も多々持っている。かつて日本からの公害輸出という形で近隣諸国に波及したものが、今は中国からアフリカはじめ世界諸地域に環境問題の輸出という形で波及している側面もある。それとの対比で、中国や各国の環境運動に対し、日本の公害反対運動その他の環境運動が与えた影響についても——特に研究者も積極的に実践に関与してきた事実があるだけに、逆に少し突き放して——世界的視野から論じる余地であろう。それとともに、連続性という意味では、今回、議論対象となる時代として飛躍した観がある、近代以降、改革開放前期までの検討も不可欠と思われる。



# 人与自然和谐相处的城市规划策略



国立环境研究所 一之瀬俊明



Fig.1 对城市变暖的各种各样的对策

近年来，中国城市变暖的现象已成为一个社会问题。其中，热岛现象是城市变暖的重要特征。由于空调的利用，能源消费的增大等给社会造成了损失。一般来讲，一天当中最大的能源消耗功率跟这一天的最高气温有明显的关系，气温越高能源消费量也就越大。这样的人的活动造成的热量排放反过来导致了城市气温的上升。

目前，针对城市变暖现象，在建筑·土木方面已经提出各种各样的对策。我们曾经以东京 23 区做为研究对象，开发了一个评价下水道中所含有的温热能源的回收及其有效再利用的可能性的地理信息系统。根据这个系统，如果东京 23 区采用下水道和垃圾焚烧作为热源进行地域供热并同时利用废热发电，将有可能减少近 8% 的二氧化碳排放量（花木等，2002）。可是要实施这样的对策，需要对设备进行初期投资。所以，在实施时应从经济效益的观点来对成本的回收所需要的年数进行估算，成本回收所需要的年数越短越好。

为了创造舒适凉爽的城市空间，在城市设计上下工夫是很必要的。以离海约 40km 的韩国首都首尔为例，夏季时海风从西向东吹向市内。海风沿着刚刚治理

好的清溪川的走向，吹到了城市中心。所以海风起到了降低城市气温的作用。应该充分利用城市河流的这种自然功能建议改善沿河的街区设计。另外，很多人认为象重庆这样的内陆盆地城市，从地势，气候方面来看，与德国的斯图加特市具有相似性。所以，可以借鉴他们已经实施过的“风道”方法。并且，为了使这种方法反映到实际的城市计划上，曾在研讨会上制作成 KLIMAATLAS(城市环境气候图)。2005 年 8 月，我们和重庆大学共同举办了这个研讨会，发现在城市规划上能够期待中

国发挥自上而下的沟通优势。

像这样的研讨会，在人民公社时代决定农村的经营方针的时候，有关人员就集中在一起进行类似的讨论，它不仅是一种自上而下的沟通的政策决定方式，并且从提供一个自下而上的沟通，达成共同意见的平台来看，一般认为这样的研讨会是有意义的。这种思考方法，对城市产业链的形成也是很有益的。一般在中国的城市，

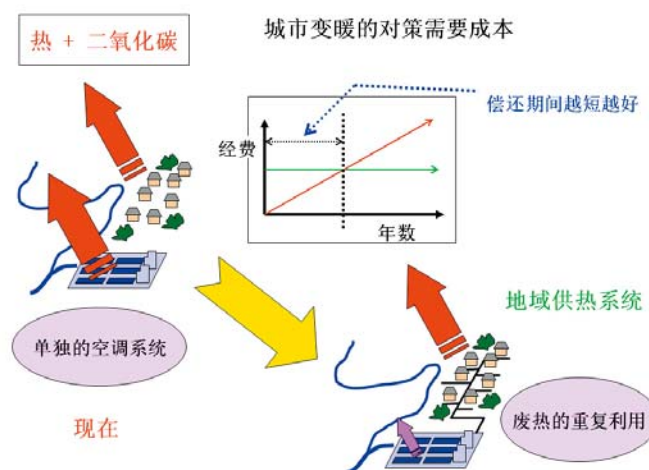


Fig.2 对设备(对策)进行初期投资成本回收所需要的年数越短越好



Fig.3 首尔市最近恢复和整治了位于市中心的清溪川

由于机密信息的种类的限制，要接近或使用空间信息库比较困难，但是，为了在中国实现人与自然“和谐”共存的城市建设，以城市规划和建筑规划为依据，在重视传统风水的前提下，创建舒适的居住环境。同时还在进行

以科学成果为依据的环境协调的设计时，还应注重和推进各方达成共识的过程以及空间信息库的建立。如果这些能够实现的话，中国就有可能比日本以及其他国家率先获得成功。

## 人と自然が調和する都市計画

(独) 国立環境研究所 一ノ瀬俊明

中国の都市においては一般に、空間情報基盤へのアクセスが困難であるが、人と自然の「和諧」を実現するまちづくりを中国で実現するためには、都市計画・建築計画的的手法にもとづいて住みよい環境を創造する「風水」

の伝統を重んじつつも、科学的な根拠にもとづいた環境調和型のデザインを、合意形成過程および空間情報基盤整備を重視して進めることが重要であり、日本などに先駆けた成功事例を実現する可能性もおおいに見出せる。

## Urban planning strategy for harmony between people and nature

ICHINOSE, Toshiaki

National Institute for Environmental Studies

In general, access to an urban spatial information database is difficult in China. To achieve the urban planning that will realize harmony between people and nature in China, we need 1) to respect the tradition of “Feng Shui” for creating a comfortable living environment based on methods of urban and building design, and 2) to promote the environmentally-friendly design

on a scientific bases, in emphasizing the consensus-making process and the establishment of an urban spatial information database. Chinese cities, therefore, have a higher probability of realizing more successful cases than do cities in Japan and other countries.



# “中国的城市化进程与环境问题” 国际研讨会综述

复旦大学历史地理研究中心 邹怡



2009年11月2日(周一),由复旦大学历史地理研究中心与日本综合地球环境学研究所中国环境问题研究基地合作承办的“中国的城市化进程与环境问题”国际研讨会在复旦大学举行。会场安排于光华楼东辅楼101会议室。

担任此次研讨会日方牵头机构的日本综合地球环境学研究所,是日本文部省所辖,与各大学平行的国家级研究所。该机构从日本各大学汇集众多地理学、环境学、历史学和生物学知名学者,以多学科整合的“人地关系”综合研究为特色。目前,该研究所还与日本国立历史民俗博物馆、国文学研究资料馆、国际日本文化研究中心、国立民族学博物馆共同组建日本人间文化研究机构,直属于文部省,共同推动日本国内高端学术机构相关资源的共享与研究项目的合作。

2008年中期以降,历史地理研究中心与日本综合地球环境学研究所从研究人员间的个别学术交流开始,迅速向单位级别的合作交流推进。史地所擅长历史时期环境问题的研究,综合地球环境学研究所专注于现代环境问题的探讨。在频繁的学术接触中,双方学者均对对方的研究思路与方法产生浓厚兴趣,并希望通过更多务实的学术活动,互相交流研究心得与成果。此次国际研讨会便是双方合作的第一次大型学术活动。

会议邀请了来自日本综合地球环境学研究所、东京大学东洋文化研究所、京都大学、日本国立民族学博物馆和日本人间文化研究机构的12名外籍代表莅临此次研讨会,他们长期致力于中国城市化进程与环境问题的研究,已在中文、日文和英文学术期刊中发表了大量研究,在城市化领域及环境学领域的国际学术界中均享有盛誉。同时,会议组织了来自本校历史地理研究中心、历史系和环境科学与工程系的11名知名学者报告成果,共同讨论。

复旦大学党委副书记陈立民教授作了开幕致辞,代表学校向会议的召开表示祝贺。在开幕式上,历史地理研究中心主任满志敏教授与综合地球环境学研究所所长立本成文教授共同签署合作备忘录,开启了双方中长期学术合作的序幕。

为期一天的研讨会共分四个主题进行:一、城市发展带来的环境问题;二、从农村向城市的人口流动引发的城乡环境问题;三、城市的历史;四、生活方式变化与城市环境。

村松伸教授和张晓虹教授就城市带来的环境问题做了报告。村松伸指出只有确保了城市资源的多样性以及人居街巷的多样性,城市整体才具备多样性,进一步,当地球上存在着特征各异的城市,地球上城市的多样性才能得到保证。张晓虹教授回顾了从开埠至民国时期上海城市生态景观的时空演变过程,指出此期上海景观格局的变化主要是近代快速城市化进程中不可避免出现的人为无序干扰的反映。

张真副教授和园田茂人教授分别以青浦和天津为例,探讨了人口流动对城乡环境的影响。与以往侧重技术、工程治理的治污思路不同,张真强调产业结构调整在乡村环境治理中的作用。园田茂人教授分析了天津城市调查中的外来人口现象,发现城市居民中存在着一种将城市环境恶化的原因归结于外来建设者的倾向,如何处理好城市居民与外来人口的关系,将是一个棘手的问题。

应地利明教授与冯贤亮副教授分别从宏观与微观关注了城市的历史。应地利明教授比较了印度与中国两种不同的都城建设思路,他认为印度的都城布局体现了“从属于婆罗门的王权”,而中国的都城体现了“君权神授的王权”。冯贤亮副教授的报告利用大量外人旅华日记和游记,复原了近代太湖平原的城镇环境和生活常态。

戴鞍钢教授与市川智生讲师研究了生活方式变化与城市环境之间的关系。戴鞍钢教授着重研究了近代以来上海城市发展带来的一系列“城市病”。市川智生讲师介绍了日本现代化过程中城乡粪便处理回收结构的变化过程。

各分论题之间以及全体报告后,会议组织了较长的开放讨论时间,由于安排了同声传译,彻底打消了中日学者间的语言隔阂,双方学者得以深层次地畅所欲言。

本次会议的召开正值上海世博会倒计时期间,会议主题与“城市,让生活更美好”的世博主题遥相呼应,因而得到了沪上多家重量级媒体的密集报道。会议次日,



《文汇报》第3版即以《上海“打工热”最早始于何时：中日专家在沪研讨城市化进程与环境问题》为题做了600余字的报道。同日，《东方早报》A48版刊发了会议召开的简讯。11月4日，《解放日报》第5版以《问诊“城市病”》为题做了大版面报道，采写了大量学者专访问答。同日，《新闻晨报》A15版“晨报地球”栏目作了题为《郊区生活垃圾成申城水体新威胁》的会议报道和学者专访。11月9日，复旦大学主页也对本次会议进行了文字与图片报道。



复旦大学与综合地球环境学研究所共同签署合作备忘录

11月11日的《复旦》第2版刊登了《史地所与日本科研机构合作：跨学科研究中国的城市化进程与环境问题》的介绍。

本次会议的论文，目前正由中日双方进行互译，计

划在2010年分由中、日出版社以中、日文同步发行。

会后，满志敏所长也与日本综合地球环境学研究所的学者就今后几年双方合作研究的主题和具体日程进行了进一步的磋商，合作研究正逐步步入实质性实施阶段。

## 国際シンポジウム「中国の都市化の進展と環境問題」

復旦大学歴史地理研究中心 鄒怡

2009年11月2日、復旦大学光華楼において国際シンポジウム「中国における都市化の進展と環境問題」が総合地球環境学研究所と復旦大学歴史地理研究所の共催で開催された。

23名の日中両国の学者が「都市の拡大にともなう文化の変容」、「農村から都市への人の流動が起こす都市・農

村の環境問題」、「都市の歴史」、「生活様式の変化と都市環境」という4つのテーマをもとに研究について報告し、討論を行った。

本会議は2010年の上海世界万国博覧会のテーマ「Better City, Better Life」にそったものと考えられたため、「解放日報」など著名な多くの上海のメディアにより報道された。

## International symposium: Urbanization and Environmental Issues in China

ZOU, Yi

Historical Geography Research Center, Fudan University

On 2 November 2009, an international symposium on “Progressive Urbanization and Environmental Problems in China”, jointly hosted by the Research Institute of Nature and Humanities and the Historical Geography Research Center of Fudan University, was held in the Guanghai Building, Fudan University. Twenty-three scholars from both China and Japan reported and discussed research based on the four topics of “Cultural Transformations due to Urban Expansion”, “Urban and

agricultural village environmental problems caused by human migration from Farming villages to Cities”, “Urban history”, and “Lifestyle changes and the urban environment”.

This conference was in accord with the “Better City, Better Life” theme of Expo 2010, Shanghai, China, so numerous well-known media in Shanghai, such as the Jiefang Daily, covered the event with interest.

## 复旦大学历史地理研究中心简介



复旦大学历史地理研究中心 · 主任 满志敏

复旦大学历史地理学科的创始人是谭其骧教授。1955年起，谭其骧领衔主编《中国历史地图集》，1982年教育部批准建立中国历史地理研究所，1988年被评为全国重点学科，1999年组建教育部人文社科重点研究基地的“历史地理研究中心”，2007年批准成立历史地理创新基地，复旦大学予以重点建设。

中心拥有自己的图书资料系统（包括图书资料室、地图室和谭其骧文库），以历史地理和地方志为藏书特色。“禹贡网（<http://yugong.fudan.edu.cn/>）”其是目前国内最活跃的历史地理网站，建站以来共有40余万人次浏览。中心学术刊物《历史地理》，以集刊形式登载历史地理专业研究论文。该刊创办于1981年，每年一辑，该刊物在国际上有很大影响，美国、日本等研究中国的学术机构都收藏该刊物。

历史地理研究中心目前由满志敏教授担任中心主任，副主任为王振忠教授和张晓虹教授。中心另有学术委员会和环境变迁专业、边疆史地专业、历史人口专业、历史地理信息专业等4个专业委员会，分别由国内外资深教授担任，负责中心研究发展方向、研究协调等工作。中心现有专职研究人员22名，行政和资料人员6名。另每年接待数名工作时间不等的访问工作研究人员。

中心注重学术团队的建设，重点培养新的学术带头人，促使年轻一代的全面成长，积极引进人才。副教授以上人员，都已去美国、英国、日本等一流大学访问交

流一年以上，半数人员在两个国家作过长期访问。12位教授承担了国家自然科学基金、国家社会科学基金项目或教育部重大项目。

中心是全国首批博士、硕士学位授予点。多年来坚持对研究生严格要求、全面指导，从研究生培养的各个环节入手，进行一系列改革。目前每年硕士和博士注册研究生约90名。由于有效的研究生培养，中心建立以来，共有4篇博士论文被评为“全国百篇优秀博士论文”，3篇获提名奖，居全国历史学科首位。为了加强研究生教学的国际化水平，除邀请国际一流学者来校作学术报告外，还有不少研究生赴美国、日本、德国、香港合作培养或参加国际会议。

2000年以来，历史地理中心科研能力大大加强，共投入到科研项目的各种纵向和横向的经费共700余万。经费主要来源于国家社会科学基金、国家自然科学基金、教育部基地重大项目、国际合作项目、国家重大文化工程项目、创新基地项目以及各种地方和部委项目。近年来中心每年发表学术论文约110篇，出版学术专著7部。

标志性成果是国内衡量研究机构的重要指标。“中国历史地理信息系统”（CHGIS）是由复旦大学历史地理研究中心与美国哈佛大学、哈佛燕京学社、澳大利亚格林菲斯大学等机构合作研究项目。该项目2000年启动，美国罗斯基金、NEH基金、国内教育部“211”



图1 研究中心资料室



图2 研究中心《历史地理》辑刊





图3 2005年ECAI上海会议

工程一期、二期，“985”工程一、二期，以及其他基金的支持下，项目顺利进行。已经完成的四期数据已经在哈佛大学网站和复旦大学历史地理研究中心的“禹贡网”上公开发布，至今已有数以万计的用户注册，并下载了基础数据。CHGIS将地理信息系统这种现代技术用之于传统中国历史地理研究的一个重要实践，CHGIS根据历史地理的时间序列特征、隶属关系特征、继承关系特征设计了数据模型和数据库关系结构，并开发了基础数据地图浏览、地名查询Web用户界面。与基础数据相配套的是一个内容丰富的政区地名释文数据库，基础数据中的每一个地名，都包括全部地名实践和空间定位的原始史料、研究结论和专家意见，以保存迄



图4 2005年美国加州大学教授施坚雅教授讲座

今为止对中国政区地名的知识和认识。

该项目先期成果公布后，受到许多专家的好评，在历次国际会议上，有关专家学者公认本项目达到世界先进水平。2010年教育部对全国重点基地评估中，该标志性成果列为第一。

历史地理研究中心成立以来，把国际交流与合作列为中心学科建设的重要方向，除了安排学术骨干长短期出访，及参加国际会议外，还不少国外学者长期、短期来访问和讲学。近年先后与日本学习院大学、大阪大学、日本综合地球环境学研究所签订合作协议。此外每年召开了各种的国际和国内学术会议，会议中充分交流研究进展和心得。

## 復旦大学歴史地理研究中心の紹介

復旦大学歴史地理研究中心・主任 満志敏

歴史地理研究中心は復旦大学内に設置された専門研究組織である。専門研究職員は22名おり、歴史自然地理、歴史人文地理、歴史地理情報などの研究に従事している。

全体の實力と学術成果は中国国内のトップクラスである。現在歴史地理研究中心では国際交流・協力の発展に努めている。

## Introduction of the Historical Geography Research Center of Fudan University

MAN, Zhimin

Director, Historical Geography Research Center, Fudan University

The Historical Geography Research Center of Fudan University is a specialist research organization set up independently within Fudan University. There are 22 specialist researchers, who are involved in researching historical natural geography, historical human geography, and historical

geographical information, etc. Overall performance and academic results are top class within China, and currently, the Center's focus is on developing international exchange and cooperation.

# 陕西师范大学西北历史环境与经济社会发展研究中心介绍



陕西师范大学西北历史环境与经济社会发展研究中心 · 主任 侯甬坚

中心组建于2000年（基础是1987年成立的中国历史地理研究所），目前是国家教育部指导下的一个人文社会科学重点研究基地，专门研究中国西北地区的历史环境及其同经济社会发展的关系。

中心依托的主要学科和专业为历史地理学（2002年该学科被批准为“全国重点学科”）。这个专业自近代产生以来，由于史念海教授五十多年来的研究业绩，在陕西师范大学形成了一个研究中心，主办有《中国历史地理论丛》期刊。现有全职科研人员15名，兼职科研人员20余名。1981年开始培养博士、硕士研究生，现在读研究生100余人。

中心的学术特色是关注学术前沿，发挥历史地理学在学科发展、新学科增长点等方面的引领作用，在历史地理学、环境史、过去环境重建诸领域的研究中，发表和出版论著，提出独到的见解。学术目标是长期坚持历史地理学研究，坚持历史地理学专业人才培养，不断扩展历史地理学各个分支领域的研究，秉承“有益于世”治学理念，产出大量基础性、区域性、理论性成果，关注和根据国家需求，为西北地区乃至更大区域的社会经济发展提供历史经验和决策参考。

现有的科研方向及其工作特点为：

（1）黄河流域环境变迁研究。在区域尺度上开展历史时期气候、河湖、植被变迁研究，包括土壤侵蚀过程、土地资源利用、水土流失形成机理等内容，兼及灾害发生及其社会应对、人为活动下耕作层的形成等专题。

（2）历史农牧业地理研究。在已有研究基础上，再向内蒙古地区、新疆地区、青藏高原地区扩展，形成新的“农牧业地理”研究思路，并将这种研究同研究区域环境变迁的过程、力度、方向结合起来。

（3）中国古都暨城市历史地理研究。研究重心为汉唐长安城、西安地区城市史，参与中国古都学会的组织和研究工作，从城市历史地理理论研究上，对全国的中国古都暨城市历史地理研究提出指导性意见。

（4）西北地区经济社会发展研究。针对中国西部、西北地区社会经济发展中的实际情况，开展“西北地区

经济发展与生态环境重建”、“陕甘宁老区生态脱贫途径研究”等项目的专题探讨。

（5）历史商业地理研究。以西北地区为重点，着重研究该地区历史时期商品性资源开发与地区生态环境演变的关系、城乡市场结构发展演变的环境基础，从市场与流通的角度揭示各种地理条件下人与环境的关系问题。

（6）环境史研究。以不同时期特定位置上人类集团的环境意识和行为为主导，开展不同类型的人与环境接触界面上的专题研究，尤其是人与特定开发环境、人与野生动物（中国虎、亚洲象等）之间关系的探讨。

中心于2002年建立的野外科研及实习基地——统万城绿色都市恢复基地，位于陕西省靖边县，地处中国北方农牧交错带之上，这里既是环境变迁研究的重要地域，也是当代生态环境重建者十分重视的实践基地（中日合作）。

2004年建立的“历史景观遥感分析与GIS实验室”，在历史文献资料、考古资料整理处理的基础上，主要利用遥感资料和先进技术进行影像分析，支持科研人员采用图形、数据资料，提高研究精度，产出高水平科研论文。

中心主办的《中国历史地理论丛》期刊（季刊），系南京大学《中文社会科学引文索引（CSSCI）》来源连续期刊，截止2010年第一季度，已出版25卷94辑。该刊专门刊登历史地理学基本理论和方法、历史自然地理、历史人文地理、地名学、方志学、古都学、历史地理学术史研究等方面的学术论文，以及历史地理学和相关学科重要的学术动态、学术评论、资料索引和出版信息等。

中心编辑和出版发行的“历史环境与经济社会发展研究丛书”（由三秦出版社连续出版），已出版7种。自第7种开始，又新扩增了“西北史地译丛”系列著作。

目前在研的中心集体项目有“211工程”三期重点学科建设项目“西北地区人文社会与资源环境的协调发展”等。详情请看中心网页（[http://env\\_dev.snnu.edu.cn/](http://env_dev.snnu.edu.cn/)）。



---

# 陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究中心の紹介

陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展中心・主任 侯甬堅

---

陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究中心（センター）は、1987年に設立された中国历史地理研究所を基礎として、2000年に設置された。主要な学科と専門は歴史地理学である。現在の研究内容は、(1) 黄河流域の環境変遷、(2) 歴史農牧業地理、(3) 中国古都・都市歴史地理、(4) 西北地域の経済社会発展などである。

本センターは陝西省靖辺県にフィールド調査・実習拠点「統万城緑色都市回復基地」を持ち、大学室内には「歴史景観リモートセンシング分析与GIS実験室」を備える。季刊「中国歴史地理論叢」を刊行し、「歴史環境与経済社会発展研究叢書」を編集・出版している。

---

## Introduction of the Center for Historical Environment and Socio-Economic Development in Northwest China of Shaanxi Normal University

HOU, Yongjian

Director, Center for Historical Environment and Socio-Economic Development

in Northwest China, Shaanxi Normal University

---

At Shaanxi Normal University, the Center for Historical Environment and Socio-Economic Development in Northwest China was established in March 2000, based on the Institution of Historical Geography, itself established in 1987. The following are the main research fields: "Environmental Change in the Yellow River Basin", "Historical Geography of Agriculture and Livestock", "Historical Geography of the Ancient Capitals and Cities", and "Environment and Socio-Economic Development in Northwest China", together with some related subjects.

The Center has a research laboratory, the "RS and GIS Laboratory for Historical Landscape", while one research and fieldwork base has been built in Jingbian county of Shaanxi province, named "Tongwan Eco-city Reconstruction Base". For several decades the Center has edited a quarterly, "Journal of Chinese Historical Geography", and it has also published a number of booklets in the "Historical Environment and Socio-Economic Development Research Books" series.

# 让绿色重新拥抱统万城 ——统万城绿色都市恢复基地 2002—2010年植树情况调研报告



陕西师范大学西北历史环境与经济社会发展研究中心 张宪功

## 一 前言

统万城，十六国时期匈奴后裔赫连勃勃所建的大夏国的都城。建城伊始，这里“背名山而带洪流，左河津而右重塞”，是“临广泽”“面清流”水草丰美、景色宜人之地。随着人类活动的加强以及气候条件的逐渐变干、变冷，到唐代时已是“地广长千里，皆流沙”的景象。此后，毛乌素沙地逐渐南侵，统万城逐步被淹没在沙漠之中。今天的统万城遗址已经被固定、半固定沙丘所包围。

国际友人东城宪治先生自1994年以来，一直参加远山正瑛先生领导的恩格贝沙漠植树活动。现在恩格贝已经实现了“绿进沙退”，成为治沙楷模。为推进毛乌素沙地的绿化建设，由陕西师范大学西北历史环境与经济社会发展研究中心和日本黄土高原绿化治沙小组发起，联合陕西省林业厅、靖边县林业局等多家单位，于2002年在统万城遗址南侧沙地上建立了“统万城绿色都市恢复基地”。东城先生对该基地进行全额经费支持并每年都与西北环发中心的师生来此进行义务植树活动。林地的日常管理与维护则委托于靖边县林业局红墩界林场来进行。

该绿化基地的建立，意在恢复该地区的自然景观，努力将其建设为自然生态良好，具有旅游、科研、教学、沙产业综合开发等多种功能的绿化治沙示范区。使其不仅成为统万城大遗址保护的一部分，而且可以与东北部的恩格贝地区遥相呼应，形成一道绿色长廊，从而实现规模绿化之功效。

## 二 调查成果综述

统万城绿色都市恢复基地的造林树种为樟子松，辅助树种为柠条、新疆杨、臭柏。这是根据植树区域土壤的pH值、含水量及微量元素等确定的。基地自2002年正式建立至今（2010年），共植树十次。其中，2002年所植树种为樟子松、新疆杨和臭柏，其余各年则均为樟子松。笔者与东城先生于2010年3月28日～29日以历年所

植树木的生长状况为核心对基地进行了实地调研，现将调查结果简述如下。

2002年所植樟子松长势良好，大部分树高已接近400cm，少量植株由于受到老鼠和野兔的啃食而死亡；新疆杨长势旺盛；大部分臭柏的枝条都已抓地，良好的固沙能力开始显现。

2003年春、秋两季各进行植树活动一次，树种均为樟子松。春季所植树木，至今树高可达202cm～270cm，根部覆盖有大量松针，表明生长健康良好。而秋季所植树木，由于寒旱交加，已全部枯死。

2004年种植的樟子松生长旺盛，树高在240～280cm之间。但成活率较低。沙蒿等沙生植被与樟子松之间激烈的生存竞争是其成活率较低的重要原因之一。

2005、2006、2007年所植樟子松，由于天气极为干旱等原因，成活率极低。目前只有2006年在沙坑地形区栽种的樟子松长势良好，树高可达40cm～60cm。此成效是因为沙坑地形具有明显的集水效应，从而为树木的生长提供了较好的水分保障。

2008年，进行了一系列的技术改进，如树苗根部



2002年所植树木



带土、鱼鳞坑的应用等。所植樟子松大部分成活。目前所见，樟子松顶部枝桠发育规整，枝叶呈黄绿色，松针覆盖较厚，生长状态良好。

2009 年所植樟子松基本全部成活，树木长势旺盛。

2010 年的植树活动至调查结束时仍然在进行中。

### 三 意见和建议

1. 地带性决定了林业发展的方向。由于今天的统万城地区处于温带半干旱、半湿润的草原地带，地带性植被为草原灌木，所以树种选择应以沙柳、柠条、花棒、踏郎、紫穗槐等灌木类为主，樟子松、新疆杨等乔木类为辅。而且应力求植被种类多样化，做到草本、木本兼顾，人工栽植与自然恢复并行。这样不仅有利于增强林地生物群落的稳定性，而且能更好地发挥其防风固沙的功能。

2. 植树区要尽可能选在沙生植被的低郁闭度区，避开高郁闭度区。因为沙蒿等沙生植被为当地优势种，在植被间的激烈竞争中会对外来物种产生扼杀作用，影响基地建设。



远处为 2002 年所植树木近处为 2006 年所植树木

3. 要激发当地人的环保意识，建设林业生态产业。产业化林业应成为未来当地人增收的新渠道。“统万城绿色都市恢复基地”的建设应具有可持续性发展性，最终实现经济、生态和社会效益的多丰收。

4. 加强宣传，唤起每一个中国人以及国际友人来关注中国的治沙事业，关注中国的绿化事业。无论是企业、社会团体，还是个人，主动为绿化事业贡献自己的一份力量。

## 統万城綠色都市回復基地 2002 — 2010 年植樹狀況調查報告

陝西師範大學西北歷史環境與經濟社會發展研究中心 張憲功

統万城綠色都市回復基地は 2002 年に設立してから現在 (2010 年) まで合計 10 回、植樹している。今回、基地設立以降植えた樹木の生長の状況を調べた。その結果に基

づき、基地の建設を進めるため、現在する問題に対して、いくつかの意見と提案を行った。

### Report on tree growth and condition

### in the Tongwancheng green urban recovery zone, 2002-2010

ZHANG, Xian-gong

Center for Historical Environment and Socio-Economic Development in Northwest China, Shaanxi Normal University

Volunteers have planted trees in the Tongwancheng green urban recovery zone on 10 separate occasions since the zone was established in 2002. We recently investigated tree growth and

condition in the zone in order to suggest how the green recovery project can be improved.

## お知らせ

### ・「天地人」の紙面を刷新します

次号より、「天地人」は中国環境問題の研究にかかわる多くの社会的アクターの情報誌として、紙面をより一層充実させてまいります。ご期待ください。

### ・シンポジウム開催のお知らせ

2010年度に拠点が重点的に取り組んでいるテーマは「西南中国の開発と環境・生業・健康」です。2010年11月に中国昆明市で雲南大学や雲南省健康と発展研究会と共催で国際シンポジウムを開催します。また、「西南中国の開発と環境・生業・健康」に関する研究会を

## 最新動向

### ・《天地人》の版面将焕然一新

为了提供中国环境问题相关的各类信息，天地人的版面将焕然一新。敬请期待。

### ・我们将主办“西南中国的开发与环境、生业、健康”国际学术研讨会

2010年度基地研究的主题是「环境与健康」。2010年11月，将在中国昆明市与云南大学共同主办「西南中国的开发与环境、生业、健康国际学术研讨会」。此外，本基地还将不定期地召开与「环境与健康」

## Currents

### ・“Ten-Chi-Jin” is expanding

“Ten-Chi-Jin” will now include a section on emerging national and international trends in the research of Chinese environmental issues. Please watch for it.

### ・Symposium on Development and Environment, Livelihood, and Health in Southwestern China

A focal theme for RIHN-China for fiscal 2010 is development and environment, livelihood, and health in Southwestern China. On November, 2010, RIHN-China and Yunnan University will cosponsor an international symposium in Kunming, China. Study meetings related to the theme of

随時開催しています。詳細は拠点ウェブサイト (<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/>) をご覧ください。

### ・「中国環境問題研究ポータル」開始

中国環境問題にかかわる多くの社会的アクターの情報源として、「中国環境問題研究ポータル (<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/activity.html>)」を開始しました。

中国環境問題に関する研究会・シンポジウム情報、書籍・論文情報を掲載していく予定です。みなさまからの情報提供もお待ちしております。rihn-china@chikyu.ac.jp まで、メールでお寄せください。

相关的一些研讨会。详情请参看我们的以下网页 (<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/>)。

### ・开始公开中国环境问题研究门户网站

为了给社会提供与中国环境问题相关的信息，已公开“中国环境问题研究门户网站 (<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/activity.html>)”。我们将在网上登载与中国环境问题相关的研究会、研讨会、书籍、论文等信息。欢迎大家提供信息。联系信箱如下：rihn-china@chikyu.ac.jp。

“development and environment, livelihood, and health in Southwestern China” will also be held. Please see the RIHN-China website (<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/>) for more information.

### ・The Chinese Environmental Issues Portal is now available

“The Chinese Environmental Issues Portal (<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/activity.html>)” has been launched. It will provide information to all social actors interested in meetings, symposia and recent publications regarding environmental issues in China. We welcome your contributions and announcements. Please send e-mail to rihn-china@chikyu.ac.jp.

## ◎図書購入のお知らせ (2010年4月～7月)

中国環境問題拠点では、中国の環境問題に関する以下の図書を購入しました。

青山周 『中国環境ビジネス』 蒼蒼社、2008年。

井熊均ほか 『中国環境都市—中国の環境産業戦略とエコシティビジネス』 日刊工業新聞社、2010年。

井村秀文 『中国の環境問題 今なにが起きているのか』 化学同人、2007年。

上田信 『大河失調—直面する環境リスク』 岩波書店、2009年。

桜美林大学北京大学学術交流論集編集委員会 『日本と中国を考える三つの視点—環境・共生・新人文主義』 はる書房、2009年。

大塚健司 編 『流域ガバナンス：中国・日本の課題と国際協力の展望』 日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年。

小柳秀明 『環境問題のデパート中国』 蒼蒼社、2010年。

鷺見一夫・胡曉婷 『三峡ダムと住民移転問題』 明窓出版、2003年。

関良基・向虎・吉川成美 『中国の森林再生—社会主義と市場主義を超えて—』 お茶ノ水書房、2009年。

高橋五郎 『中国経済の構造転換と農業：食料と環境の将来』 日本経済評論社、2008年。

高橋五郎 『農民も土も水も悲惨な中国農業』 朝日新聞出版、2009年。  
中国環境問題研究会 『中国環境ハンドブック 2009-2010年版』 蒼蒼社、2009年。

橋本芳一・関根嘉香・王雪萍 『中国の空 日本の森』 慶應義塾大学出版会、2004年。

包茂紅 『中国の環境ガバナンスと東北アジアの環境協力』 はる書房、2009年。

保母武彦・陳育寧 編 『中国農村の貧困克服と環境再生：寧夏回族自治区からの報告』 花伝社、2008年。

堀井伸浩 『中国の持続可能な成長—資源・環境制約の克服は可能か？』 日本貿易振興機構アジア経済研究所、2010年。

楊慶敏・三輪宗弘 『中国のエネルギー構造と課題：石炭に依存する経済成長』 九州大学出版会、2008年。

羅朝暉 『中国におけるSO<sub>2</sub>排出権取引政策の研究—中国の環境制度と中国、日本、韓国間越境汚染・排出権取引モデルでの分析』 プイツーソリューション、2009年。

発行日 2010年8月25日

編集・発行

中国環境問題研究拠点

〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山 457-4

総合地球環境学研究所

TEL 075-707-2462 FAX 075-707-2513

<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/>

製作・勉誠出版

Date of Issue 25 Aug, 2010

Edited and Published by

RIHN Initiative for Chinese Environmental Issues

457-4 Motoyama, Kamigamo, Kita-ku, Kyoto 603-8047 Japan

Research Institute for Humanity and Nature

TEL: +81-75-707-2462 FAX: +81-75-707-2513

<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/>

Produced by BENSEY PUBLISHING INC.